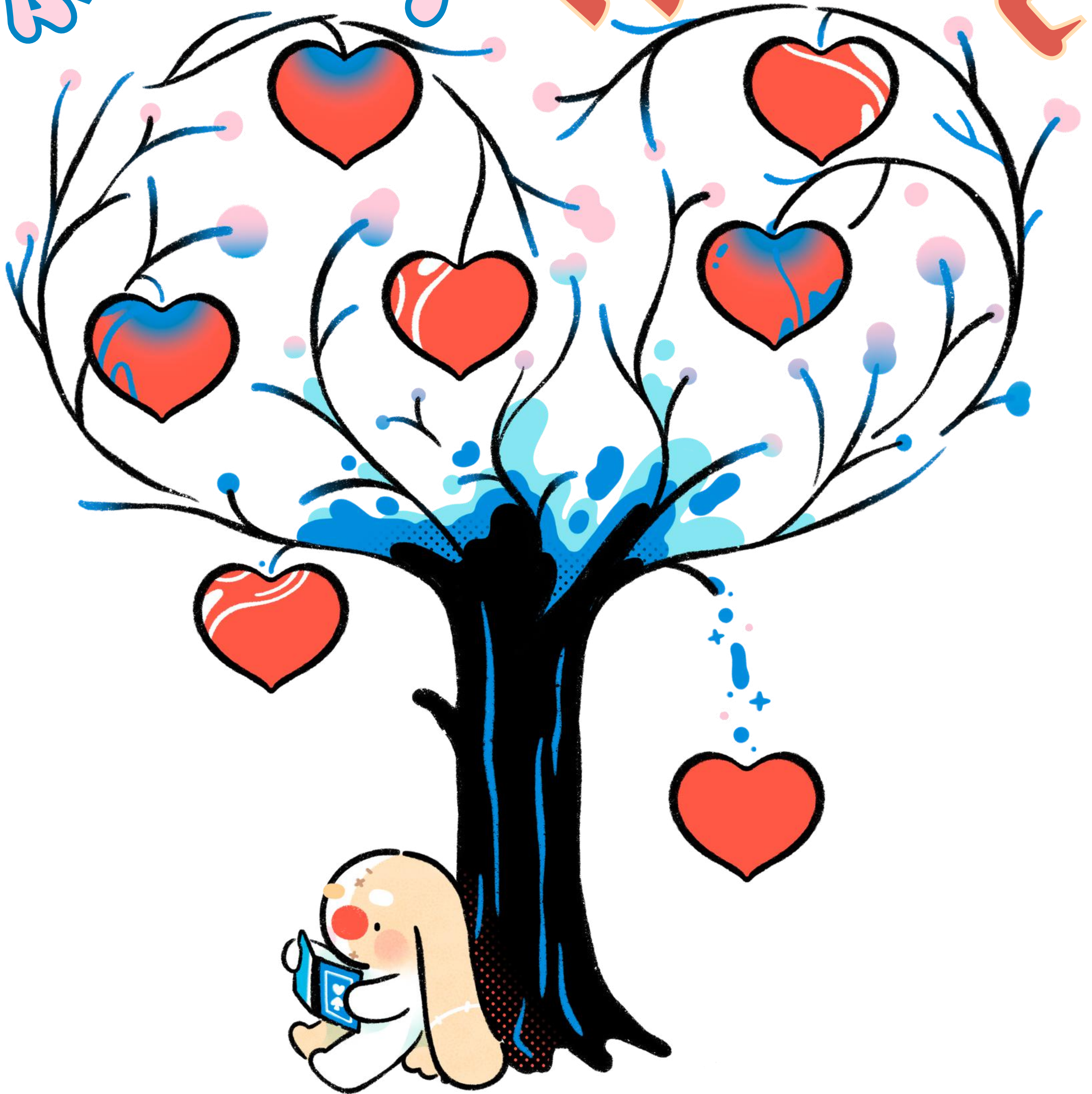


わくわく中国文化



—古代中国人の夏の過ごし方①—

Illustration by KOH\_HSL([instagram](#))

# —古代中国人の夏の過ごし方①—

真っ赤な太陽がかんかん照りつけ、近年では気温が段々上昇しています。現代人にとっても快適に過ごせない夏を、古代の人はどうやって過ごしていたかという疑問を抱きませんか。一緒に古代の中国人の暑さ対策を見てみましょう。

## 1.古代人の真夏の清涼飲料

凡そ3000年前の殷の時代に、富裕層は翌年の暑気払いのために、冬に氷を削り、穴蔵に貯蔵し始めました。春秋時代の末期には、冷やした米酒（日本の甘酒のような飲み物）（図1）が流行っていました。古代では、現代のような冷蔵庫がなかったので、夏に氷を使うことは容易なことではありませんでした。春秋時代の中期から、青銅鑿（青銅で作った器）が流行っていました（図2・3）。古代のアイスボックスなので、「氷鑿（鑑）」とも呼ばれています。



図1/米酒



図2/青銅鑿

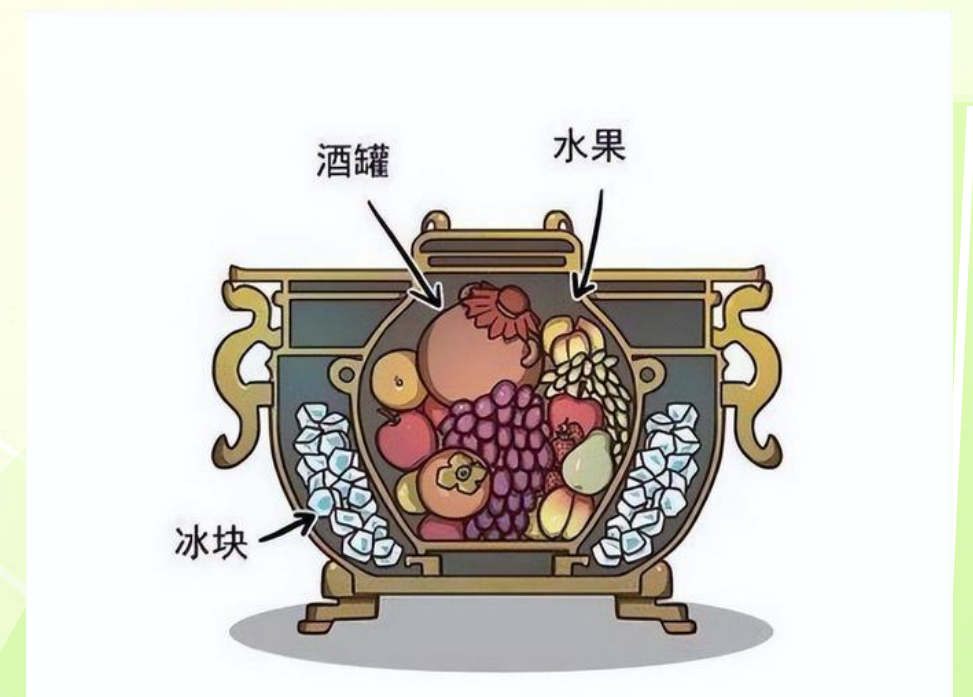


図3/青銅鑿の内部

しかし、隋唐時代になると、深い井戸で氷を貯蔵する新しい方法が生まれるにつれて、天然氷の貯蔵の効率が上がりました（図4）。民間には、氷を貯蔵する商人も現れました。唐の時代から、氷を販売する商人が現れました（図5）。知識層は自分で冷たい食べ物を作りました。（図6）唐の時代の末期に、硝酸カリウムの用途が発見されました。硝酸カリウムは水に溶けるに従い、溶解熱を奪ってさらに硝酸温度を下げます。その冷凍効果は水を氷に変えることができません。それ以降は、氷の使用率も段々上がり、庶民でも使えるようになりました。（図7）



図4/天然氷の貯蔵



図5/氷の販売



図6/古代の冷たい食べ物

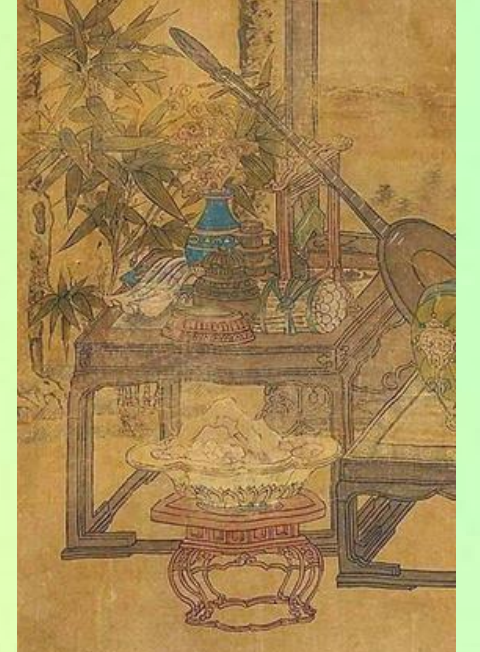


図7/部屋にある氷

南宋時代には、町中に冷たい飲み物や食べ物を売る店が方々ありました(図8)。主に緑豆汁(図9)や滷梅水(サンメイタンに似たジュース)(図10)や梅花酒や鹿梨漿(山梨汁)(図11)などが販売されました。また、果物・牛乳・氷などで作った「かき氷」(図12)もありました。特にジュースは非常に流行っていました。



図8/冷たい飲み物などを売る屋台



図9/緑豆汁



図10/滷梅水



図11/鹿梨漿



図11/ヤマナシ



図12/かき氷

元の時代に、現在のアイスクリームに似た暑気払いの食べ物が出現しました。氷の中に蜂蜜、真珠パウダーと牛乳を加え、「氷酪」(乳酪のデザート)(図13)が作り出されました。

清の時代には、様々な冷たい飲み物や食べ物が出てきました。一番有名なのは「氷鎮酸梅湯」(冷やしたサンメイタンジュース)(図14)でした。サンメイタンは宋の時代から流行った滷梅水が進化してきた飲み物です。現在でも、夏の定番の飲み物の一つです。



図13/氷酪



図14/氷鎮酸梅湯

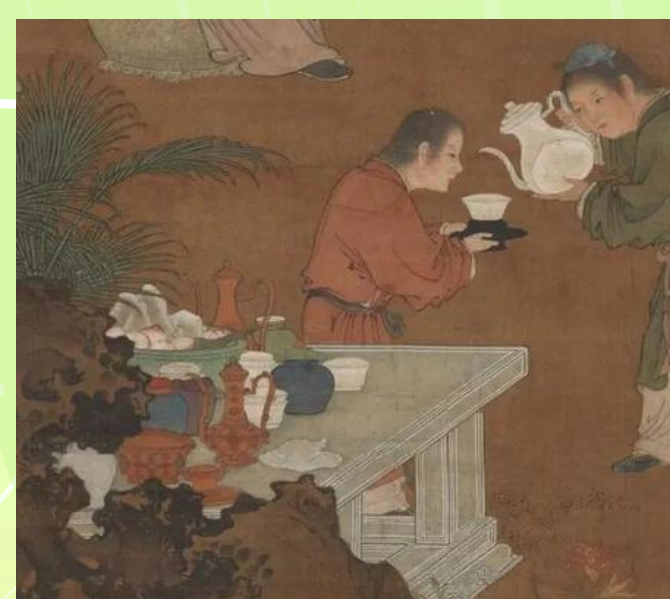


図15/様々な冷たい飲み物

## 2.古代人の夏の服装

古代人は絹と麻で作った衣装をよく着ていました。絹と麻の製品は現在の綿と化学繊維の製品より通気性良く、涼やかだそうです。

古代の服装はほとんど丈の長い長袍(チャンパオ)でした。庶民と農民は動きやすい長袖に長ズボンをよく着ました。(図16)



図16/古代の衣装と屋台



図16/古代の衣装と屋台



図16/古代の衣装



図16/絹の服



図16/竹の下着



図16/薄い絹の服

### 3.古代の貴族の夏の住居

先秦時代から、夏に涼しい家を作ることは当時の流行りだったそうです。氷をいっぱい置いた地下室は当時の主流スタイルでした。「窟室」と呼ばれていました。漢の時代に、「清涼殿」(図17)と呼ばれた立派な建物に進化しました。部屋の石製寝台の上に氷を盛った「玉晶盤」(ガラスの器)を置き、侍者が扇子で器を向いて扇ぎます。冷却効果は抜群だったそうです。(図18)

唐の時代に、皇帝は宮廷の中に避暑専用の「涼殿」(涼しい宮殿)を持っていました。水が循環する方法で生まれた涼しい風は殿内に送られました(図19)。また、水を屋上に送り、屋根に沿い落下させ、水幕が作られました。その目的は暑さをしのぐことでした。(図20)



図17/漢代の清涼殿の遺跡



図18/玉晶盤と扇子

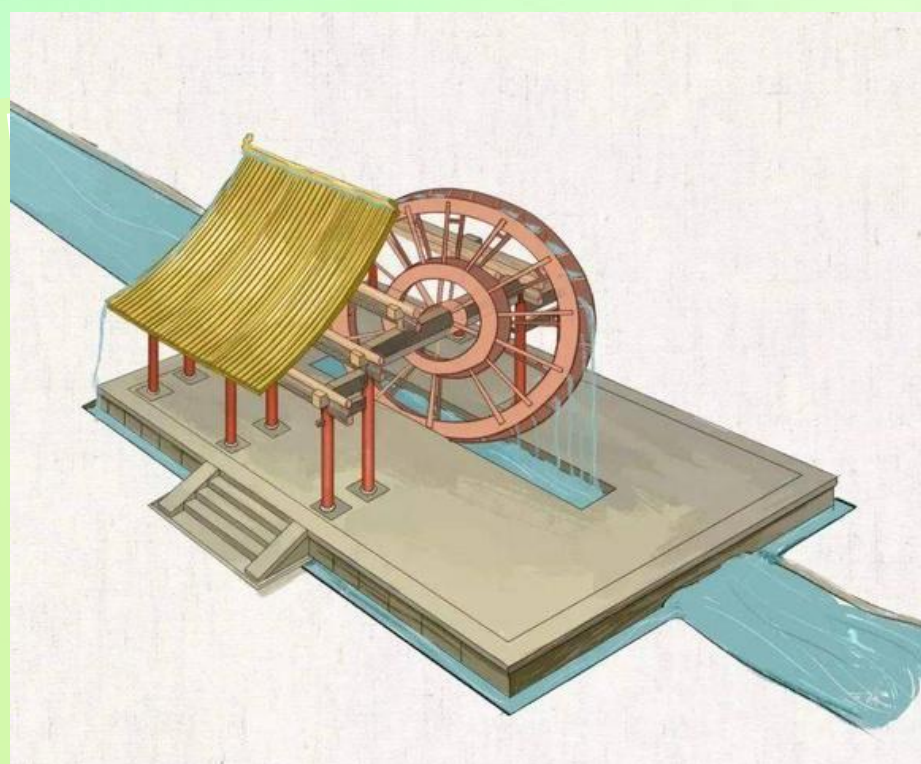


図19/古代の水循環装置



図20/涼殿



図20/涼殿

宋の時代になると、人々はもっと快適な空間を求めて、「涼殿」を発展させました。水を循環させることだけでなく、宮殿のあちこちに花なども置かれました。目的は涼しい風の中に花の香りを漂わせ、室内を満たすためだそうです。その他、宮廷内に大量の氷が貯蔵してありました。

明・清時代に、富裕層は居間に深い井戸を掘りました。そのうえを蓋でちゃんと覆い、蓋に穴をあけました(図21)。夏に涼しい空気が出てくる一方で、冬は温かい空気が出てきます。また、氷を貯蔵する穴蔵も進化してきました(図22)。皇室は携帯アイスボックスや小型機械扇風機などが普及し(図23/24)、避暑用の別荘もいくつか建てられていました(図25)。



図21/井戸式の窟室



図22/清代の穴蔵

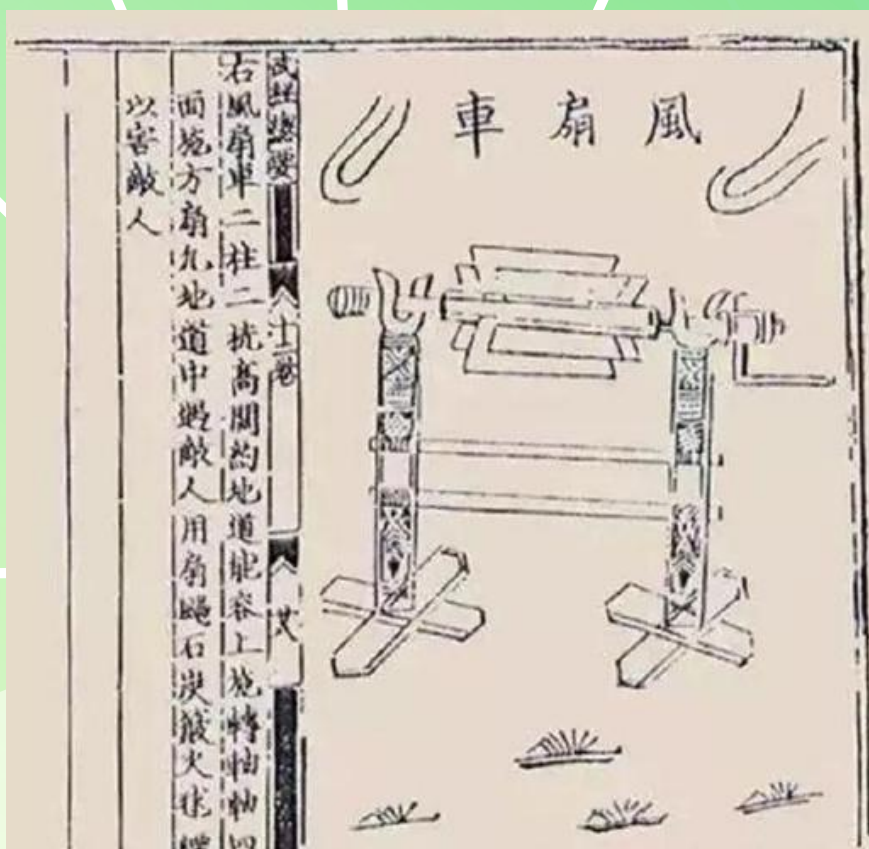


図23/機械扇風機



図24/アイスボックス



図25/避暑用の別荘